

学位研究 第3号 平成7年6月 (研究ノート/資料)  
〔学位授与機構研究紀要〕

リージェント大学の履修要件Ⅰ—自由学芸学位

Requirements for Liberal Arts Degrees of Regents College  
—Translation from the College Catalog—

橘 利 枝

Rie TACHIBANA



# リージェント大学の履修要件 I —自由学芸学位

橋 利 枝\*

## はじめに

本資料は、アメリカの主要な学外学位授与大学であるニューヨーク州教育評議会 (USNY) リージェント大学のカレッジカタログ (Regents College: College Catalogs) の一部を翻訳・紹介するものである。この大学に関しては本紀要第1・2号の館論文の中で、日本の学位授与機構学士とよく似た授与制度をもつ大学として解説されており、続号でその履修要件などを紹介する旨を予告している。リージェント大学では自由学芸・看護・商業・技術の分野で学士・準学士の学位を授与しているが、本号ではそのうち自由学芸学位の準学士号ならびに学士号取得のための履修要件を翻訳し掲載する。

この号で翻訳しているのは、*Regents College College Catalog: Liberal Arts Degree* 中の Degree Programs in the Liberal Arts における Requirements and Policies for all Liberal Arts Degrees の部分、Associate Degrees の部分および Baccalaureate Degrees の部分 (pp. 46-67) である。ここでは、まず準学士号と学士号に共通の履修要件が示されている (本紀要 pp. 114-116)。次いで準学士号取得のための履修要件が示される (pp. 117-118)。最後に学士号取得のための履修要件が示される (pp. 119-147)。学士号の取得についてはまず全専攻分野に共通する要件が示され、さらに各分野ごとの要件が詳細かつ具体的に述べられている。それら学士における専攻分野は、地域研究、生物学、化学、コミュニケーション、経済学、外国語・外国文学 (非西欧)、外国語・外国文学 (西欧)、地理学、地学、歴史学、文学、数学、音楽、哲学、物理学、政治学、心理学、社会学の18分野にわたっている。

また本文中には学芸準学士、科学準学士、科学学士、学芸学士の各々について学位取得のための履修のモデル図が掲載されている。これら図については翻訳のうえ各学位の要件とともに掲げた。

なお、本紀要における自由学芸学位の履修要件の翻訳・掲載は、リージェント大学の許可 (1995年6月5日) を得たうえでなされたものである。

---

\*学位授与機構審査研究部助手

## リージェント大学の履習要件——自由学芸学位(全訳)

### 自由学芸学位共通の履習要件

すべての自由学芸学位の取得に必要な要件は以下の通りである。

#### I 英作文

学生は以下のうちのどれか一つの方法をもって英語による論文能力を示さなければならない。

1. 到達度テスト, リージェントカレッジ特別評価試験, 大学レベル試験プログラム (CLEP) の作文を伴う一般試験, アドバンスト・プレイズメントの英語試験
2. カレッジ・コース 以下のうち一つに該当すること。
  - a. 論文の講義を1 Semester受けていること (3 時限以上, 評価C以上)。
  - b. 論文を主とした人文学の講義を1 Semester以上受けていること (3 時限以上, 評価C以上)。
  - c. Semester・クレジットを積み上げた, 地域ア kreditation 協会の認定を受けている大学における作文の講義を修了していること。この条件に見合うコースにおいて, C以上の評価を受けていなければならない。
  - d. 大学の実施による, 作文の集中講義, 作文の特別講義, 応用作文。

上記のコースから2コースを受講していること (各々3時限以上)。応用作文2コースを受講した場合は, それぞれが作文をする上での異なった応用の方法論を主題とするものでなければならない。評価はC以上であること。

3. 大学以外の実施による講座。

連邦もしくはアメリカ大学協議会 (ACE) の非大学主宰講座プログラム (PONSI) による評価を受けているコースないしプログラムを修了していること。少なくともクレジットの作文コースの認定証を要する。このコースでは受講生の英語による論文能力の実質的な評価が行われていなければならない。これは上述した, 大学におけるコースや到達度テストと同様である。

#### II ジェネラル・エデュケーション

受験生は, 以下に挙げる3分野それぞれのクレジットを提出して, ジェネラル・エデュケーションを積み上げ, ないしはそれを受けていることを証明しなければならない。

人文学

社会科学・歴史学

自然科学・数学

すべての学位の取得に, 以上3分野それぞれのクレジットが必要である。学習領域の配当は各学位の項目で述べる。

### Ⅲ 学芸科学／自由選択

すべての学位授与プログラムには最小限の学芸科学のクレジットが必要である。また職業学習、応用学習には上限をもうけている。これを自由選択と呼ぶ。

#### A. 学芸科学とは

学芸科学は、知識を得てゆくための論理的な基盤を据える学習である。これを3つの領域に大別すると、

人文学

社会科学・歴史学

自然科学・数学

となる。人文学の領域においては、芸術、比較文学、演劇、英語、外国語、音楽、哲学、宗教の各々がいかなるものであるのか、その意味、それらにおける人間存在の価値について考察する。

社会科学と歴史の領域においては、人類学、経済学、地理学、行政学、歴史学、政治学、心理学、社会学の各々における人間の行動と相互作用を考察する。

自然科学と数学の領域においては、生物学、科学、地質学、数学、物理学の各々において分析、測定、研究調査を行う。

#### B. 自由選択

自由選択とは、リージェント大学の用語で、論理的な知見を応用して具体的な問題解決にあたるような科目を指す。ここには農学、建築学、刑事裁判、教育、グラフィック・デザイン、法律、図書館学、医学、栄養学、ソーシャル・ワークの各領域が含まれる。自由選択は、大学によっては応用コースと呼ばれていることもある。

### Ⅳ 多様性の教育

リージェント大学では、すべての学生に、人文学と社会科学の課程において多様な民族文化グループを視野に入れた研究や、西洋文明のとらえ直しを視野に入れた研究を行うことを奨励している。

### Ⅴ 数学の制限

数学の発達コース及び補習コースで取得したクレジットを学位取得のためのクレジットとして加算することはできない。微積分以下のレベルの数学のクレジットは、リージェント大学のすべての学位に関して、3セメスター（ないし4クォーター）分まで加算可能とする。

微積分以下のレベルの数学のコース名のうち、代表的なものを以下に挙げる。

大学の数学

大学の代数

初等関数

工業数学

応用数学

三角法

微分積分までの数学

## Ⅵ 総クレジット数

準学士号を取得するためには60クレジット、学士号を取得するためには120クレジットが必要である。これらクレジットはそれぞれの学位ごとに定められた条件を満たしていなければならない。

註；本カタログにおいて、「クレジット」の語はセメスタークレジットを指す。

## Ⅶ 平均評価の下限

卒業のためには、累積平均でC (2.0) 以上の評価を得なければならない。

## 準学士号 Associate Degrees

### 学芸準学士 Associate in Arts Degree

学芸の準学士号取得には60クレジットが必要である。この総クレジット数は、英作文、ジェネラル・エデュケーション、学芸科学、自由選択の各クレジットからなる。

- ・必修クレジット：英作文3クレジット
- ・ジェネラル・エデュケーション必修クレジット：3領域のうち2領域から各12クレジット，1領域から9クレジット，計33クレジット

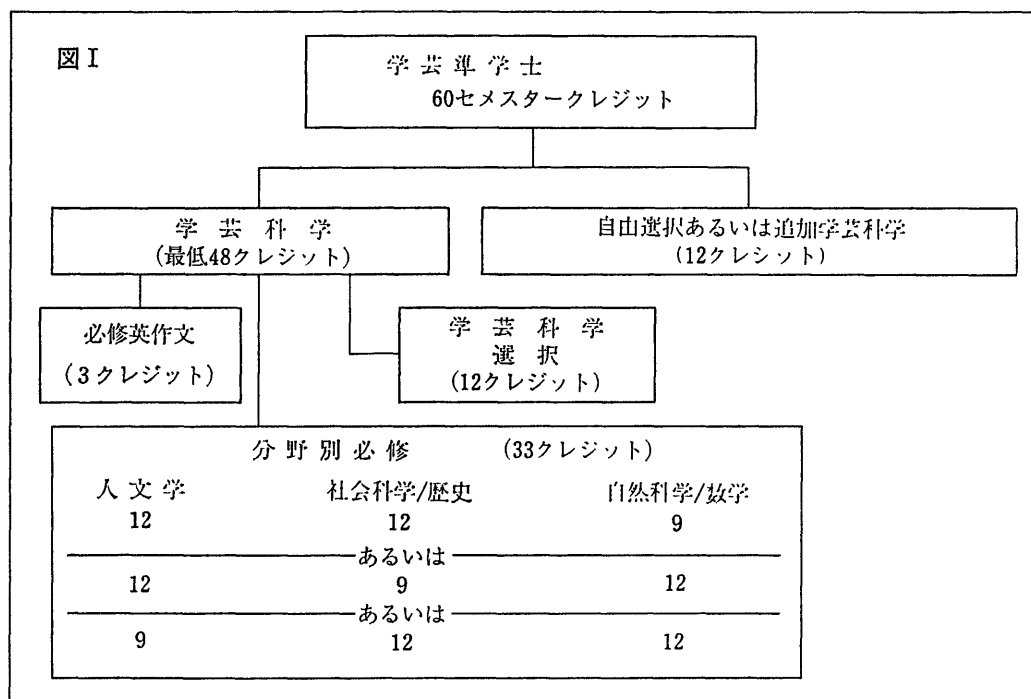
人文学

社会科学・歴史学

自然科学・数学

- ・学芸科学選択科目12クレジット

- ・自由選択12クレジット



## 科学準学士 Associate in Science Degree

科学の準学士号取得には60クレジットが必要である。この総クレジット数は、英作文、ジェネラル・エデュケーション、学芸科学、自由選択の各クレジットからなる。

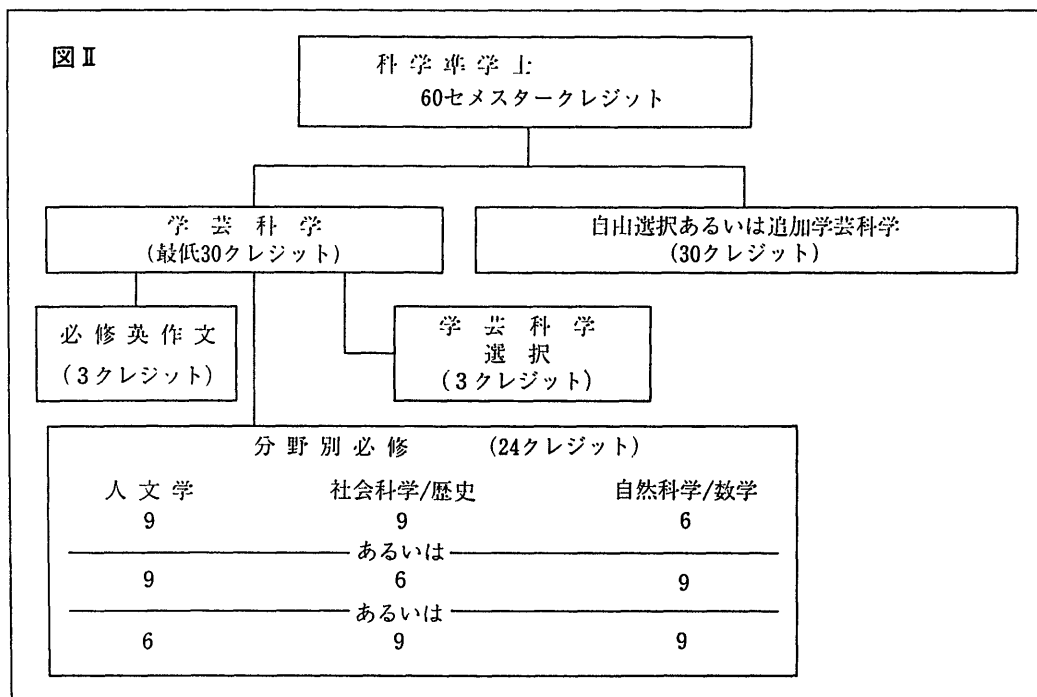
- ・必修クレジット：英作文3クレジット
- ・ジェネラル・エデュケーション必修クレジット：3領域のうち2領域から各9クレジット，1領域から6クレジット，計24クレジット

人文学

社会科学・歴史学

自然科学・数学

- ・学芸科学選択科目3クレジット
- ・自由選択30クレジット





## 学 士 号 Baccalaureate Degrees

学士号の取得には120クレジットが必要である。この課程は必修英作文、必修ジェネラル・エデュケーション、専攻研究ないし自由研究必修、学芸科学選択科目からなる。コースの選択においては、相応のレベルの高さと理解の深さが要求される。

### I レベル要件 Level Requirement

学生は少なくとも30クレジット以上の上級レベルの科目のクレジットを提出して、学習のレベルの高さを証明しなければならない。上級レベルという名称は、入門的な内容のものではなく、当該の学問分野に関する相当の知識のうえにさらに知識を積み重ねるような内容の、高等で精練的なコースに冠せられる名称である。このようなコースは、伝統的に、入門コースや中級コースを修了して、当該の科目領域を学ぶ必要条件を満たしている4年制大学の3・4年生に対して提供されてきたものである。短期大学やコミュニティー・カレッジでのコースで取得されたクレジットは上級レベルのクレジットにはならない。大学3・4年生に配当されているコースでも、入門コースや中級コースである場合には初級レベルと見なす。例を挙げると、経営原理、文化人類学、西洋美術などは、各大学がつけているコース番号に拘わらずすべて初級レベルと見なす。

学芸学士課程では、上級レベルのクレジットは30クレジットすべて学芸科学のクレジットとする。科学学士課程においては、上級レベルのクレジット30クレジット中21クレジットを学芸科学のクレジットとする。

### II 専門性要件 Depth Requirement

学生は少なくとも2つの学問分野(科目領域)における深い知識を示して自らの専門的知識を証明しなければならない。これら2領域において各12クレジットが必要である。なおそのうち3クレジットは上級レベルのクレジットでなければならない。学芸学士の場合、2領域とも学芸科学のクレジットとする。科学学士の場合には、1領域のクレジットは学芸科学のクレジットとする。科学学士のもう1領域については学芸科学のクレジットを認めることも可能であり、また応用的知識、すなわち農業、経営、教育、工業技術、軍事科学、看護などのクレジットも認められる。

ここで深い理解を求める理由は二つある。一つは特定の専門領域への偏りを防ぐことであり、もう一つは専門の分断化を防ぐことである。たとえば重複する学問領域のクレジットを、深い知識のクレジットとして加算することはできない。また深い知識を持つ分野が重複しないまでも類似している場合(社会学と刑事裁判のような場合)には、双方に関係のある内容のコース1コースのみを申請することができる(たとえば犯罪学入門)。分野の重複が見られる場合には、最終的な決定はファカルティが行う。

専門性要件を満たす学科では平均各2.0以上の評価を受けていなければならない。

### Ⅲ 特定科目領域の専攻ないし選択自由研究の修了

#### A. 特定科目領域の専攻

学生は、専攻ガイドラインに掲げた学問分野における30クレジットを提出して、当該分野での専門的知識を持つことを証明することができる。この30クレジット中15クレジット以上は同一の学問分野における上級レベルの科目クレジットでなければならない。専攻科目は成績証明書に記載される。

#### B. 選択自由研究

特定科目領域の専攻に代えて、広範な研究課程を選択することも可能である。学生は必修英作文、必修ジェネラル・エデュケーション、必修学芸科学、レベル要件・専門性要件を満たす学科を学習する。個々の学生の専門性は、ここでのクレジットの配分によって形成する。

#### 特定科目領域の専攻

専攻研究が可能な分野はいくつかある。特定科目領域における専攻研究によって知識を得たことを証明する方法は3種類あり、専攻研究では、どの方法の場合でも平均2.0以上の評点が必要である。

1. 当該領域における適切かつ十分な大学のコースないし到達度テストを受けること
2. リージェント大学特別試験で十分な成績を修めること
3. 当該領域における大学院入学共通試験（GRE）の上級科目テストで十分な成績を修めること

選択自由研究による全クレジット30クレジットのうち15クレジットは初級レベル、15クレジットは上級レベルとする<sup>1)</sup>。なおGREの上級科目テストは次の領域で受験できる。

生物学<sup>2)</sup>

科学<sup>2)</sup>

経済学

フランス語（フランス文学）<sup>4)</sup>

地理<sup>3)</sup>

地学<sup>2)</sup>

ドイツ語（ドイツ文学）<sup>3)</sup>

歴史

英文学

数学

音楽

哲学<sup>3)</sup>

物理学<sup>2)</sup>

政治学

心理学

社会学

スペイン語（スペイン文学）<sup>4)</sup>

註

- 1) 心理学, 社会学, 教育学における上級科目テストには, 相互に重複するものがある。心理学および/あるいは社会学のテストに合格した者は, 教育学のテストでは27単位を取得するだけでよい。
- 2) 実験を行う必要のあるラボラトリー・サイエンス（生物学・化学・地学・物理学）の専攻研究を行おうとする者は, 大学院入学共通試験に加えて, 十分な実験の経験を備えていることを証明しなければならない。化学の場合, 十分な実験の経験をj得るためには実験を伴う適切な科学のコースを最低4コース修了しなければならない。他の専攻の場合は, 2コースを修めるものとする。
- 3) この領域では, 1983年12月以来, GREの上級科目テストは実施されていない。テストの停止以前に取得したクレジットのみ申請を受け付ける。
- 4) この領域では, 1987年10月, 12月以来, GREの上級科目テストは実施されていない。テストの停止以前に取得したクレジットのみ申請を受け付ける。

## 専攻ガイドライン

以下のガイドラインはリージェント大学のファカルティーの作成による。各専攻における必修科目とその周辺の科目を示した。学生はこれらにおいて必修の単位を取得し, また選択科目や奨励されている科目を履修すること。

## 地域研究

地域研究は, 人間の文化を学ぶための学際的アプローチであり, 各々の地域で生活する人びとの生活, 言語, 慣習に対する深い洞察を行うものである。学生は中東, 東南アジア, ラテンアメリカなどの地域を設定し, それぞれの地域における信仰の体系, 美学, 行動様式に焦点をあてた人文科学・社会学のコースを統合的に修めていることを示さなければならない。

専攻研究の必要最低限のクレジット数は30クレジットであり, うち15クレジットは上級レベルのクレジットでなければならない。

ここで「対象地域」「対象言語」という用語を用いるが, これは学生が研究の焦点をあてるそれぞれの文化を指す。たとえば, 日本を中心とした地域研究を行う場合には, その学生の対象領域は日本であり, 対象言語は日本語である。また「背景文化」という用語は対象地域を取り巻く文化を指す。たとえば日本についての地域研究をしている学生にとっての背景文化は東アジアということになる。

### I 必修科目

A. 読解, 会話, 作文の中級コース（2セメスター）。通常このレベルの研究に備えるには2セメスターの基礎研究が必要である。ここでのクレジットは専攻研究のクレジットには加算され

ないが、学位取得のためのクレジットには加算される。

- B. 背景文化の調査研究（たとえば中国を対象地域とする学生は東アジアの文化を、ヘブライを対象地域にする学生は中東の文化を、ノルウェーを対象地域とする学生は西ヨーロッパの文化をそれぞれ研究する）。
- C. 背景文化における文献の研究。

## Ⅱ 中級・上級コース

最小4コースを必修とする。領域A, B双方から最低1コースずつ選択すること。

### A. 人文学

- 1. 上級言語研究
- 2. 哲学 中国文化における主要な哲学, 日本における哲学論議, 近代ヨーロッパの思想など
- 3. 宗教研究 聖書, 仏教, アフリカの宗教思想, ヘブライの教義の伝統, コーラン, 比較宗教学など
- 4. 文学 フォークロアの論議, ラテンアメリカ小説, 日本演劇入門, 近代中国文化におけるロマン派とポストロマン派, 比較詩学, 文学と社会, アフリカの民話, アイスランドの英雄伝説など
- 5. 芸術 中国・日本の風景画の伝統入門, インド芸術論議, オロッコ（メキシコの画家 José C. Orozco…訳註）の壁画, イタリア美術の代表作など
- 6. 音楽 西アフリカの打楽器, 民族音楽入門, 世界の大衆音楽, 世界の音楽文化など
- 7. フォークロア 中国文学における神話, マハーバーラタなど
- 8. 人文学 学際コースを含む

### B. 社会科学

- 1. 歴史 中国—ロシア関係, 非西欧社会への西欧の技術・社会の影響, ラテンアメリカと合衆国, (対象地域の) 歴史, 近代日本の台頭など
- 2. 人類学 文化と健康, 北アフリカの民衆と文化, コリア文化史, 植民地文化の諸問題など
- 3. 政治学 世界の共産主義の歴史, 植民地主義と帝国主義の理論, 比較政策学など
- 4. 社会学 人口統計と開発, 近代化と比較開発, 近代非西欧世界における人種・階級・民族など
- 5. 経済学 飽食と飢餓, 世界飢饉の問題, 第三世界諸国の経済学, 日本の経済力の台頭
- 6. 社会科学 学際コースを含む

## Ⅲ その他選択科目

専攻研究の完遂のために必要な対象言語, 対象地域および背景地域に焦点をあてた科目を選択すること。

## 生物学

生物学は生命の形成の学問である。必修科目を提示するにあたって、ファカルティは学生がこの近代の科学的学問の研究と調査に必要な方法に親しみ、生物学と生物学上の諸問題を解決するときに助けとなるような科学の基本的知識や、逆に一般的な科学の諸問題の解決のために生物学にできることは何かということを知得できるよう企図した。学生には、狭隘で高度に専門化されたアプローチよりもむしろ生物学の議論を幅広く学び取ることを奨励する。

生物学専攻に必須の基礎科目は一般科学と大学の三角法およびコンピュータ・サイエンスを含めた数学である。ただしこれらのコースのクレジットは生物学専攻のクレジットには加算されない。大学院レベルでも生物学の研究を継続したいと希望する学生には、ファカルティは有機化学、一般物理学コース、微分積分を含む数学を履修することを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。生物学では最低でも実験2コースを必修とし、うち1コースは上級レベルとする。生物学のコースは可能な限り実験を伴うものを履修すること。

### I 必修科目

- A. 生物学入門（調査）コース。個体群生物学・細胞生物学・生物分類学・遺伝学・動植物の発育についての総合的な調査など
- B. 細胞・分子生物学。細胞生物学原理，細胞と分子，有機化学と個体群，免疫学，細菌学，微生物学など。

### II. 中級・上級コース

生物学の主要なテーマを網羅するものとする。以下に挙げる各領域から最低1コースを専攻研究に含むこと。

- A. 遺伝と進化
- B. 科学史ないし生命倫理学史
- C. 動物ないし植物の生物分類学・解剖学と生理学，中級生物学，脊柱生理学，組織学
- D. 生態
- E. 発育 発生学，発育生物学など

### III その他選択科目

IIに挙げた各コースのほか動物行動学，生化学，内分泌学，鳥類学，植物変化，発生植物誌など。

## 化学

近代の化学は物理学と数学，および生物学・地学・心理学・広範なテクノロジーの各分野の応用

に根源を發する学際的科目である。化学の専攻は基本的原則を重視し經驗的技術を伸ばすよう企図されている。

1年間の微分積分のコースと、同じく1年間の大学の物理学を化学専攻の必須の基礎科目とする。ただし、これらのコースで取得したクレジットは化学専攻のクレジットには加算しない。また、コンピュータの基礎科目の履修を強く奨励する。

大学院で科学の研究を行う予定の学生は、物理学、無機化学、分析化学のコースを選択科目として履修することが望ましい。ほとんどの大学院課程では1年間の分析化学と上級無機化学のコースワークが求められる。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。化学では最低でも実験4を必修とし、うち1つの実験は上級レベルのものとする。

### I 必修科目

- A. 一般化学 科学的測定，原子構造，周期関係，結合理論，物性，溶解物性（通常第1期）および熱化学，熱力学，図形無機化学，有機化学，生化学を網羅する入門コース2セメスター。
- B. 有機化学 構造，立体化学，機械学，炭素化合物反応などのコース2セメスター。
- C. 分析化学（ないし測定分析） 電位・分光・色素・立体化学測定およびその他物理化学上の測定分析方法の実験を行うコース1セメスター。
- D. 物理化学 熱力学原理およびオープンシステム・クローズドシステムにおける応用熱力学，位相と化学的平衡，溶解熱力学，電気化学，運動論，輸率。

### II 中級・上級コース

化学の主要な領域を網羅するものとする。以下に挙げる各領域から最低1コースを履修すること。

- A. 分析化学
- B. 生化学
- C. 無機化学
- D. 学際的化学（たとえば高分子化学，環境化学，医化学など）
- E. 原子化学
- F. 有機化学
- G. 物理化学

### III その他選択科目

IIに挙げたコースのほかには化学合成物質，物理無機化学，固体化学，量子化学，分光學，運動論と統計熱力学，実験物理化学など。

## コミュニケーション

現代のコミュニケーション研究は、個人や集団が情報を伝達し思考や感情や態度や理念を表現するために用いる様々な手段を分析している。

学生は共通の必修科目のほかに、5つの主要領域から選択をする。5つの領域とはジャーナリズム、修辞と広告、テレビ・ビデオ・映画、職業コミュニケーションと組織コミュニケーション、演劇である。各領域の中心には歴史・調査手法・およびコミュニケーションの倫理的問題の検討を据える。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

## ジャーナリズム

### I 必修科目

- A. 言論の基礎
- B. ジャーナリズム入門
- C. 先進ジャーナリズム

### II 中級・上級コース

以下のうちから最低3コースを選択すること。

- A. ジャーナリズム史
- B. ジャーナリズム倫理
- C. ジャーナリズムにおける調査手法
- D. ジャーナリズム講読
- E. 法律とジャーナリズム
- F. 広報

### III その他選択科目

上級作文、ジャーナリズムにおける写真、放送ジャーナリズム、特集記事、草稿編集、スポーツ記事、科学記事、調査報道記事、ジャーナリズム実習、雑誌ジャーナリズム、雑誌編集、広告、デスクトップ出版、意味論。

## 修辞と広告

### I 必修科目

- A. 言論の基礎
- B. 説得

## Ⅱ 中級・上級コース

以下のうちから最低3コースを選択すること。

- A. 修辞の歴史
- B. コミュニケーションの倫理
- C. 調査手法
- D. 通訳
- E. 説得
- F. ディベート
- G. 国際コミュニケーション
- H. コミュニケーション理論
- I. 近代修辞理論
- J. 受信者分析

## Ⅲ その他選択科目

作文と演説, ナレーション技術, コミュニケーションと文化, 文学における修辞, 修辞と政治, アメリカのマス・コミュニケーション, 批評理論, 集団力学, 小集団コミュニケーション, 組織行動, 音声学, 英語史, 意味論

## ラジオ・テレビ・映画

### I 必修科目

- A. 言論の基礎
- B. コミュニケーション入門ないしマス・メディア入門
- C. ラジオ論, テレビ論, 映画論

### Ⅱ 中級・上級コース

以下に挙げるうちから最低3コースを選択すること。

- A. メディアの倫理と法律
- B. 調査技法
- C. ジャーナリズム
- D. 放送原稿・メディア作文
- E. 映画技術
- F. 映画ジャンル論
- G. 脚本
- H. ニュース原稿
- I. 映画論および映画批評



Ⅲ コミュニケーションにおける選択コースは制作部門と理論および批評部門に分かれている。双方から最低計4コースを選択すること。各部門コースは以下のようなものである。

- A. 制作部門 上級作文, ニュース放送, ラジオ・テレビ・ビデオ・映画制作, ラジオ・テレビ・ビデオ・映画編集, 映画撮影技術, 演技, 監督, 制作, インタビュー, 音響制作, ケーブルテレビ。
- B. 理論および批評部門 メディア批評, マス・メディア, 国際コミュニケーションとその将来, ドキュメンタリー映画・ビデオ・テレビ, 主要監督, 世論, 広告効果, 国際映画, 意味論。

## 職業コミュニケーションと組織コミュニケーション

### I 必修科目

- A. 言論の基礎
- B. コミュニケーション入門
- C. 国際コミュニケーション
- D. 組織コミュニケーション

### II 中級・上級コース

以下のうちから最低3コースを選択すること。

- A. コミュニケーション史
- B. コミュニケーションにおける倫理的諸問題
- C. 調査手法
- D. コミュニケーションの心理学
- E. 集団課程
- F. 世論
- G. アメリカのマス・コミュニケーション
- H. 非言語コミュニケーション
- I. 文化際コミュニケーション
- J. 医療コミュニケーション
- K. 受信者分析

### Ⅲ 選択科目

議論とディベート, ナレーション技術, 職業コミュニケーション, 現代広告, 広報, ビジネス記事・科学記事・技術記事・広告記事, インタビュー, 修辞の歴史, 政治的論述, 組織行動, コミュニケーションにおけるコンピュータ, ビジュアルコミュニケーション, プレゼンテーショングラフィックス, 受信者分析, 意味論。

## 演劇

### I 必修科目

- A. 言論の基礎
- B. 演劇入門
- C. 演劇史

### II 中級・上級コース

以下のうちから最低3コースを選択すること。

- A. 演技
- B. 舞台美術
- C. 監督
- D. 制作

### III その他選択科目

芝居部門、パフォーマンス部門、制作・企画部門から最低計4コースを選択すること。各部門ごとのコースは以下のようなものである。

- A. 芝居部門 芝居研究, アメリカの芝居, イギリスの芝居, 大陸の芝居, 喜劇, シェイクスピア演劇, 芝居における劇場と批評
- B. パフォーマンス部門 ミュージカル, モダンダンス, 上級演技
- C. 制作・企画 制作・企画, 舞台照明, 衣裳デザイン, 公演マネジメント, 演劇実用講座

## 経済学

経済学は富の生産・分配・消費を行う人間の組織の学問である。この研究は、経済学理論、法律、ジャーナリズム、国際情勢と行政、産業関係、公共サービスに関心のある学生に幅広い基礎知識を提供するものである。

ファカルティは、学生が経済学という学問を幅広く体験しながら、経済学者の用いる道具と技術に慣れ親しむことを奨励する。経済学の専攻には少なくとも1セメスターの微分積分を含む、十分な数学の基礎知識があることが望ましい。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

#### A. 経済原理

1. マクロ経済入門 国家歳入の測定と生産・雇用レベルの測定, 国家予算・貨幣供給・暫定予算・インフレーションを中心とした経済に果たす政府の役割, 外国為替レート

2. ミクロ経済入門 生産物を決定し、需給関係から採用する結果を決定するメカニズムとしての需要供給価格システム、さまざまな競争状況における事業者の最大利潤追求行動、生産と利潤配分による価格決定、課税、価格の差異化、行政指導

B. 中級理論 以下の1・2より各1コース計2コース

1. マクロ経済理論 国家損益計算、歳入策定理論、消費・投資・貨幣需要、失業とインフレーション、経済成長理論
2. ミクロ経済理論 消費者行動理論（家計行動）、事業者・市場・利益配分の理論、一般均衡と経済効率

C. 統計学 記述統計学、確率論、推論、仮説テスト、分散解析

## Ⅱ 中級・上級コース

経済学の主要な関係領域を網羅するものとする。以下に挙げる6コースから最低3コースを履修すること。

- A. 貨幣と銀行業務 連邦準備銀行システム・営利銀行・貨幣供給統制、銀行業界の構造
- B. 国際貿易と為替 国際貿易と国家経済—貿易関係の論理的基盤、関税・税関・為替レート・国際貨幣理論・経済成長
- C. 経済思想史 経済学説の展開、経済の理論化の方法論と社会経済状況の変化との相互関係
- D. 計量経済学 経済調査によく用いられる計量経済学の方法論の検討。古典的線形回帰モデル、分散の不均一と自己相関攪乱項、確率回帰、同時決定方式モデル。
- E. 調査方法
- F. 公共財政 政府支出と税収およびそれらの経済安定への影響、財源配分、歳入分配、財政連邦主義の諸問題

## Ⅲ その他選択科目

以下に例を示す

比較経済システム（世界の諸地域の経済システム）

消費経済学

経済発展

アメリカ経済史またはヨーロッパ経済史

医療経済学

環境経済学

経済分析と意志決定

経済予測

行政と実業

産業組織

労働経済学と産業経済学

## 外国語・外国文学（非西欧）

非西欧の言語と文学の研究によって、ある一つの非西欧の言語に関する専門的知識を得ることが可能となる。非西欧の言語とは、東洋の言語、アラビア語、インドーイランの言語および各民族言語を指す。ここでの専攻研究は、それら言語による会話・講読・作文ができるようになり、またその言語に関する幅広い知識を習得し、さらに文学・文化・文明をも理解できるよう企図されている。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

ここで「対象地域」「対象言語」という用語を用いるが、これは学生が研究の焦点をあてるそれぞれの文化を指す。たとえば、日本語の研究を行う場合には、その学生の対象領域は日本であり、対象言語は日本語である。また「背景文化」という用語は対象地域を取り巻く文化を指す。たとえば日本語の専攻研究をする学生にとっての背景文化は東アジアということになる。

履修必須条件：対象言語の入門研究2セメスター

### I 必修科目

- A. 中級講読、中級会話、中級作文（2セメスター）
- B. 上級講読、上級会話、上級作文（2セメスター）
- C. 対象言語地域の研究
- D. 背景文化の研究（例：中国語・中国文学研究の場合はアジア文化、アラビア語・アラビア文学研究の場合は中東文化）

### II 中級・上級コース

- A. 以下に挙げるうちから上級言語コース1コース
  - 1. 上級会話練習
  - 2. 上級講読 新聞用語、ビジネス用語、古典・文学用語などのコース
- B. 文学 以下に分類した3コース
  - 1. 対象文化の伝統文学研究（英訳によるものも可）
  - 2. 対象文化の現代文学研究（英訳によるものも可）
  - 3. 背景文化の文学研究（英訳によるものも可）

### III その他選択科目

専攻研究の履修要件が上記に分類した3コースまでで満たされた場合にも、選択コースを履修することができる。選択コースは対象言語、対象文学、背景言語、背景文学に関するコースとする。

以下に対象地域、背景地域のコースとして適切なコースを挙げる。

対象言語における地方語（例：アラビア語を対象言語とするときのエジプト語）

文学と社会

対象文化・背景文化の文学における女性

対象文化・背景文化の文学と革命

対象文化・背景文化のフォークロアの主題

対象地域・背景地域における詩

## 外国語・外国文学（西欧）

西欧の言語と文学の研究によって、ある一つの西欧の言語に関する専門的知識を得ることが可能となる。西欧の言語とは、ドイツ語、イタリア語、ケルト語、ギリシア語、スラブ語を指す。ここでの専攻研究は、それら言語による会話・講読・作文ができるようになり、またその言語に関する幅広い知識を習得し、さらに文学・文化・文明をも理解できるよう企図されている。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

履修必須条件：対象言語の入門研究2セメスター

### I 必修科目（カッコ内はスラブ語のみの特記事項）

- A. 中級講読、中級会話、中級作文 各2セメスター（スラブ語は4セメスター）
- B. 対象言語を支える文化の研究
- C. 対象言語による文学研究 2セメスター（スラブ語は4セメスター）

### II 中級・上級コース

3領域から最低5コース履修すること。以下のII Aの中から最低1コース、II Bの中から最低3コースを履修するものとする。文学コースのうち1800年以前の時代をカバーするコースを1コースは履修すること。なおこのようなコースを2コース履修することを奨励する。スラブ語族については、上級レベルの必修科目が満たされれば専攻研究は修了したものと見なす。スラブ語以外の言語を専攻する学生については、II A、II Bの両領域からコースを履修して専攻研究に必要な残りのクレジットを積み上げなければならない。

- A. 上級言語・上級言語学 音声学、言語史、言語構造、上級高等練習などの言語の特別な用法、ディベート、ビジネス用語、社会科学用語
- B. 文学 以下のようなコースで履修可能
  - 1. 文学における時代区分・動向
  - 2. 文学のジャンル
  - 3. 作家の個と派

#### 4. 文学論および文体論

### Ⅲ その他選択科目

(スラブ語履修者の場合は上に分類したコースの履修が完了すれば専攻研究を修了したものと見なす。)

#### 文学と社会

対象文化・背景文化の文学における女性

対象文化・背景文化の文学と革命

対象文化・背景文化のフォークロアにおける論議

対象地域・背景地域における詩

### 地理学

地理学は記述的の学問であり、地球の表面、地表の大陸と国への分割、そしてそれぞれの地域における気候・植物・動物・天然資源・住民・産業を扱う。

ファカルティは、必修科目と選択コースから幅広い知識を得ることを奨励する。選択コースは地理学上の技術、論題となるテーマ、地域問題を扱う。ここで学生は自然的・地学的・文化的要因の相互作用を検討するための技術と知識を養う。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

#### I 必修科目

- A. 自然地理学入門
- B. 文化地理学・人文地理学入門
- C. 地図解析・地図作製法入門
- D. 統計学入門

#### II 中級・上級コース

地理学の主要なテーマを網羅する。以下に挙げる領域からコースを履修すること。

- A. 地理学上の技術 以下のようなコース

上級航空写真

上級地図製作法

航空写真解析・遠隔探知

デジタル解析

地理情報システム

上級遠隔探知解析

## 空間解析

### B. 地理学上の論題 以下のようなコース

生物地理学

気候学

経済地理学

エネルギー資源・鉱物資源

農業地理学

手工業地理学

原料生産物地理学

地形学

気象学

天然資源

人口地理学

交通地理学

都市地理学

都市計画

### C. 地域研究 以下のようなコース

アフリカの地理学

東欧とロシアの地理学

ヨーロッパの地理学

極東の地理学

ラテンアメリカの地理学

北アメリカの地理学

中東の地理学

合衆国の地理学

## Ⅲ その他の地理学関連の選択科目

## 地 学

地学は科学の1領域であり、惑星の物質的構造・構成を扱う。その科目領域は広範で、月面クレーターから地球の海底まで、結晶格子から巨大な地球まで、化石の群棲環境から地球の年齢までに及ぶ。

地学専攻に必須の基礎科目は一般化学、大学の物理、1年間の微分積分である。ただしこれらのコース数は地学専攻のコースには加算しない。なお、コンピュータの基礎科目を1年間履修することを強く奨励する。

応用地学の分野での研究を希望する学生は、野外調査法、鉱床システム、岩石の基本3型についての岩石学を履修すること。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。地学では実験2を必修とし、うち実験1は上級レベルのものとする。

### I 必修科目

以下に挙げるAからEまでの5つの論題について、各1セメスターの履修を必修とする（古生物学が上級コースに分類されていてもここでは考慮しない）。

- A. 自然地学・歴史地学
- B. 鉱物学
- C. 構造地学・地学地図
- D. 層位学・古生物学・地質年代
- E. 野外調査法

### II 中級・上級コース

地学の主要なテーマを網羅するものとする。学生は以下の4コースから最低2コースを修了しなければならない。学部での専攻研究を修了したのちにさらに地学の研究を行う場合には、野外調査、鉱床システム、岩石の基本3型についての岩石学の知識が必要である。したがって、Ⅲに挙げた応用地学の研究を希望する学生には、これら3領域のコースを履修して応用研究に備えることを奨励する。

- A. 光学的鉱物学・記載岩石学
- B. 堆積岩石学・鉱床システム
- C. 火成岩石学・変成岩石学
- D. 水文学

### III その他選択科目

以下のような論題

応用地学研究

経済地学

地球科学

地球物理学

古生物学

地域地学・構造地質学



## 歴史学

歴史学は近い過去と遠い過去における、人と出来事の学問である。この分野が非常に広範にわたり、また拡大が続いていることを考慮して、ファカルティは歴史学を専攻する学生には一時代を深く研究するとともにこの学問分野の全体的な広がりをも理解するよう強く奨励する。

最低必要な必修科目以上の学習を希望する学生、あるいは学士号を得た後もさらに歴史学の研究を続けることを希望する学生は、統計学のコースと外国語研究を履修すること。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

- A. 西洋文明、世界史ないしはこれらに相当するものの入門コース2 Semester（この必修科目に対して3～4コースの上級コースを履修する場合には、うち少なくとも1コースは1789年以前の時代を扱うものとする）。
- B. 歴史学上の調査・研究の本質を直接または間接に指向するコース最低1コース（史料編纂、歴史的研究方法論、歴史哲学、入門的調査を含む歴史学のセミナーコースなど）。

### II 中級・上級コース

歴史学に関する主要な領域を網羅するものとする。

- A. 合衆国史（最低1コース） アメリカ文明の基礎、近代アメリカ文明、アメリカ植民史、独立戦争期のアメリカ、1877年から1919における近代アメリカの誕生、近現代の合衆国など。
- B. ヨーロッパ史（最低1コース） 中世初期、ルネサンス初期のヨーロッパ、近世ヨーロッパ初期における絶対主義と啓蒙主義革命期のヨーロッパとナポレオン期のヨーロッパなど。
- C. 非西欧史（最低1コース） 近代の中東、伝統的東アジア、1601年以前の中国と日本、1880年以降のアフリカ史、アフリカの回教、植民地以前のインドなど。
- D. 上記3領域のうちの1領域の中で最低3コース。1領域において計4コースになるよう履修すること。

### III その他選択科目

ギリシア世界、1815年以降のフランス、スラブの伝統、近代の東欧、ユダヤ主義、宗教史、19世紀アメリカの生活と文化、合衆国の教育と子どもの歴史、市民権、近代アメリカ文化における性と権力、中国の官吏と日本の侍、歴史上の大都市、憲法史

## 文学

文学専攻は、主要な文学ジャンルを理解し、批評力を涵養し、主要な作品を読むためのより広い知識を得るために、イギリス文学とアメリカ文学におけるもっとも主要な時代の代表的な作品を研

究できるよう企図とされている。またここでは法学、医学、ソーシャルワークなど、大学院レベルでの文学研究を希望する学生のための人文学の知識も得ることができる。

関連科目は創作、解説、ジャーナリズム、映画、外国語である。これは文学専攻のコースには加算しない。

大学院での研究を計画している学生、または英文学方面の就職を計画している学生は、これらの関連科目に親しんでおくことが望ましい。また、ほとんどの英文学の大学院課程では、入学の際に1つの外国語をマスターしていることが求められる。さらに、初等・中等・高等を問わず、英語の教職に就く学生には教育学の作文コースを履修することを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I イギリス文学研究 2 セメスター

- A. 前半がチャーサー、ミルトン、ダン、オースティンなどの初期の作家の作品の精読1セメスター、続く後半が1800年から現代までのロマン派、ビクトリア派、モダン派の作家の作品の精読1セメスター。
- B. シェイクスピア 1セメスター 戯曲1編を選択して履修すること。
- C. アメリカ文学研究 フランクリン、ダグラス、ホイットリー、エマーソン、ソロー、ホーソン、メルヴィル、ディキンソン、ホイットマンなど初期の作家の作品の精読、ジェームス、クレーン、ドライザー、フロスト、ショパン、ウォートン、フォークナー、ヘミングウェイ、オニール、ライト、モリソン、ウォーカーなど後期の作家の作品の精読。

### II 中級・上級コース

文学の主要な領域を網羅するものとする。II A・II B・II Cの各両領域から最低1コースの履修を必修とする。

- A. 文学の時代区分と動向 中世の文学、啓蒙時代、ロマン主義、ビクトリア期、自然主義とリアリズム、20世紀アメリカ文学、ハーレム・ルネッサンス、アイルランド文学ルネッサンスなどのコース。
- B. 文学ジャンルないし文学形式 詩形式、小説研究、短編小説、戯曲の発展、スラブの物語、アメリカの伝記文学、女性の日誌・日記文学などのコース
- C. 主要作家 チャーサー、シェイクスピア悲劇、ミルトン、ジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』、エミリー・ディキンソンの詩、フォークナー／ヘミングウェイ／フィッツジェラルド、E. M. フォスターとD. H. ロレンス、ヴァージニア・ウルフのセミナー、主要黒人作家、ユダヤ系アメリカ人作家、アメリカ文学における民族の声などのコース。

### III その他選択科目

挙げた領域コースに加えて、以下のような領域のコースが履修できる。

- A. 比較文学 世界の文学，日本文学の伝統形式，19世紀ロシア文学，近代アメリカ文学，ダンテの『神曲』，叙事詩と叙情詩，ギリシアの戯曲などのコース。
- B. 文学主題の研究 文学と倫理，東西の文学関係の異質性，青春の文学，文学のモチーフとしての罪と罰，アーサー王伝説，幻想詩，文学における女性像などのコース。
- C. 言語学 古英語，中世英語，英語史，構造言語学，意味論などのコース。
- D. 文学理論および／あるいは文学批評

文学のテキストそれ自体を問う際，あるいはテキストが書かれ読まれた時代の文化的・歴史的背景との関係の中で問う際の諸問題を検討する一般コース。これらのコースはニュー・クリティシズム，構造主義，読者反応批評，マルクス主義，フェミニズム，脱構造主義，ポスト構造主義などの批評の理論ないし流派のうちどれか一つに焦点をあてたものとする。

## 数 学

数学は（人間の思想の重要な一分野であるという意味で）文化的学問領域であり，また（関連科目領域におけるデータ操作の道具であるという意味で）技術的学問領域でもある。数学を専攻に選んだ学生は，数学という科学の分析的な面と応用的な面の両面における専門知識を涵養することになる。

数学の専攻研究を行おうとする学生は，微分積分までの数学の学習からはじめなければならない。これを中等教育レベルで修了している学生には，微分積分からはじめることを強く奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし，うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

- A. 微分積分までの数学（大学の代数，三角法，初等関数）。1セメスターコース以上は専攻研究としては受理しない。中等教育レベルで微分積分までの数学を修了している学生はあらためて履修する必要はない。
- B. 微分積分数列  
解析幾何学を含み3セメスターコースを履修すること。

### II 中級・上級コース

数学の主要な領域を網羅するものとする。ここに挙げたうちII A・II Bの両領域からは最低各2コースずつを必修とする。全体では計5コースになるよう履修すること。

- A. 解析 以下のようなコース
  - 上級微分積分
  - 複素解析
  - 微分方程式

微分幾何学

実解析

ベクトル解析

B. 代数 以下のようなコース

現代代数概論

代数構造

線形代数

行列代数

数論

C. 応用数学 以下のようなコース

組み合わせ論

コンピュータ理論（数値分析に関連するものに限る）

決定理論

グラフ理論

線形計画法

多変量解析

非線形計画法

ノンパラメトリック統計法

数的解析

オペレーション・リサーチ

確率論

サンプリング法

統計学（数学科配当のもの）

時間級数解析

Ⅲ その他選択科目

以下のテーマから履修可能とする。

代数構造

数学論理

現代幾何学

投影幾何学

集合理論

トポロジー

## 音 楽

音楽専攻は音楽史と楽理，そして演奏からなっている。この分野はきわめて多面的な分野なので，ファカルティは学生が一つの領域を深く研究する一方で分野全体の幅広い知識を身につけることを奨励する。

大学院レベルで音楽の研究を継続する計画を持つ学生には，ドイツ語，フランス語ないしイタリア語を学習することを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし，うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

#### A. 音楽史および文献研究入門 以下の2コース

1. 音楽史および文献研究入門（鑑賞を含む） このコースでは西欧の音楽作品を選択し，楽器，奏法，形式などがどのように使われているかを検討する。
2. 音楽史および文献研究中級・上級コース このコースは音楽様式史のコースか，あるいは中世とルネサンス期の音楽，古典—ロマン派時代の音楽，20世紀の音楽，主要作曲家，録音史，世界の民衆音楽，ヨーロッパの民族音楽，インドと西アジアの音楽など，特定の音楽における音楽学および歴史文献研究からなる。

#### B. 楽理および作曲 以下の2コース

1. 楽理入門 聴音練習と鍵盤楽器による和声の研究を含む。
2. 楽理・作曲 中級・上級コース このコースは対位旋律研究，和声研究，音楽分析研究からなる。以下にここでの代表的なコースを挙げる。

形式と分析，初見歌唱と拍子，音楽文献購読，編曲，即興演奏，カノンとフーガ，様式分析，聴音，ディクテーションと口音分析，スコア分析，楽理の実践，弦楽四重奏，分析研究，シェンカー派分析入門，古典・ロマン期のピアノ協奏曲

#### C. 演奏・応用音楽

器楽ないし声楽の演奏1コース。独奏・独唱，合奏・合唱のいずれも可とする。鍵盤楽器，歌唱，ヴァイオリン，器楽指揮などが代表的なコースである。

II Iで挙げた必修科目のほかに，音楽史および文献研究，楽理および作曲，演奏・応用音楽のうちどれか1領域から3コースを履修し，Iで履修した1コースと併せて4コースになるよう学習すること。

### III その他選択科目

## 哲 学

哲学とは、森羅万象をつかさどりかつ真理に対する知識を明白ならしめる原理の探求である。哲学専攻では神の存在と自己の本質というような哲学の古典的命題に対する理解を深めることもでき、また形式論理や批判思想、推論、分析など体系だった思考方法を研究することもできる。さらに、倫理学や価値理論の研究も可能である。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

- A. 哲学入門 哲学における主要な命題の研究。真実の本質と自己の本質、知と真とに関する命題、宗教における諸問題など。これらは主要な哲学者の著作を通して、また基本命題のコースで研究できる。
- B. 倫理学入門
- C. 形式論理・批判思想・推論・分析入門

### II 中級・上級コース

哲学の主要な領域を網羅するものとする。II A、II Bから各コース、II Cから1コースを履修すること。

- A. 哲学史 古代哲学、中世哲学、近代哲学（デカルトからカントまで）、19世紀哲学、現代哲学などのコース。
- B. 価値理論、バイオエシックス、職業倫理、東洋哲学、芸術哲学、美学、社会倫理、社会・政治哲学、メタエシックスなどのコース
- C. 構造哲学 認識論、現象学、フェミニスト哲学、形而上学、言語哲学、法哲学、宗教哲学、科学の哲学、社会科学の哲学、象徴理論、精神哲学などのコース

### III その他選択科目

## 物理学

物理学とは、自然界における作用をつかさどる基本的な規則・法則の探求である。物理学専攻は、学生に広範な物事に対する深い洞察力を与えるものである。

物理学の研究に必須の基礎知識は、一般化学の知識と、微分方程式以上の数学の知識である。これら科学と数学のコースは物理学専攻のコースには加算しないが、学位の取得に必要な全単位数には加算される。また必修コース以外にも数学と化学のコースを履修することを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。なお物理学では実験2コースを必修とし、うち1コースは上級レベルのものとする

る。

## I 必修科目

### A. 一般物理学入門（実験を含む） 2セメスター

一般物理学のコースに実験が含まれていない場合には、さらに実験の入門コース1コースを履修すること。一般的に、ニュートン力学、波動、熱力学を第1セメスターに配当し、電気と磁気、光学、相対性理論、量子物理学を第2セメスターに配当している場合が多い。

### B. 電気と磁気（マクスウェル関係式を含む） 2セメスター

### C. 古典力学 2セメスター

粒子力学、共振、回転基準系、天体物理学、波動、ラグランジュ力学

### D. 原子物理学・近代物理学

量子現象を扱う実験および理論、原子・分子・原子核についての初等量子論、レーザー・トランジスタなどの応用理論。

## II 中級・上級コース

以下に挙げる領域のうち最低3領域において各1コースを履修すること。うち上級実験1を必修とする。

### A. 量子力学

### B. 熱力学および／あるいは統計力学

### C. 波動と光波および／あるいは物理光学

### D. 原子物理学あるいは近代物理学

### E. 核物理学

### F. 固体物理学および／あるいは物質量子理論

## III その他選択科目

理論物理学、粒子物理学、原子物理学あるいは近代物理学（必修科目におけるコースよりも高度な内容のもの）、核物理学、固体物理学および／あるいは物質量子理論

## 政治学

現代の政治学は、規則が成立する過程を探求し、あるいは小は個人的組織から都市・国民国家を経て大は国際組織に至るまでの紛争の過程を探求している。

ファカルティは、学生が広く政治学全体における理解を進めるとともに、一つの領域をある程度深く研究することによって政治学の主要なアプローチに親しむことを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

## I 必修科目

- A. アメリカの行政入門あるいは政治学入門
- B. 統計学（政治学ないしそれに相当する内容のもの）
- C. 調査方法（政治学ないしそれに相当する内容のもの）

## II 中級・上級コース

政治学の主要な領域を網羅するものとする。

以下に挙げる II A から II F までの 6 領域のうち 3 領域に関して最低 1 セメスターコースを履修すること。またその 3 領域のうち 1 領域においては 3 コースを修了しなければならない。

### A. アメリカの行政

ここでは次の主題を扱う。

- 1) アメリカの行政組織（議会，最高裁判所，大統領制，連邦政府と州政府など）
- 2) アメリカの政治行動の諸側面（投票と選挙，政党，世論など）

なおここにはアメリカの行政学入門のコースは含まない。

### B. 公共行政と公共政策

ここでは予算，人事，効率向上など公共行政に関する伝統的な関連事項を扱う。また，近年重要視されている一般的な政治学上の諸問題を扱うこともできる。典型的なコースとしては公共政治と政治過程，環境政治，憲法と政治などが挙げられる。

### C. 比較政治

ここに分類されるコースは「地域研究」である。アフリカの政治，ラテンアメリカの政治，西欧の政治その他が挙げられる。あるいはここでのコースは政治体系や政治現象の比較研究であるともいえる。典型的なコースとしてはロシアと東欧の政治，サハラ以南のアメリカの政治，比較政党学などが挙げられる。

### D. 国際政治

ここでは国際法，国際組織を扱うほか，国際安全保証問題，国際紛争，外交政策なども扱う。典型的なコースとしては世界政治の問題，国連，国際法などが挙げられる。

### E. 方法論

ここでは政治的・社会的現象に対する統計法と研究法を扱う。ここには上記 I に挙げた調査方法のコースは含まない。典型的なコースとしては政治調査，政治学におけるプラグマティズムなどが挙げられる。

### F. 政治理論・政治哲学

ここでは以下の 3 つの論題いずれをも扱う。

- プラトン，マルクス等の古代・近代の主要な政治哲学者
- 平等の理論，正義の理論等の政治上の決定に影響を及ぼす主要な諸問題
- ゲーム理論，理性的選択などの「積極的」政治理論



### Ⅲ その他選択科目

#### 心理学

心理学は行動と思考と感情の学問であり、広範な科学を人間に応用する分野である。心理学における科目を十分に理解するためにはまず、人間が行動するとき、そこにはどのような生物学的・社会的・知的原因がはたらくのかということを見極める多様な視点を持つ必要がある。

ファカルティは学生に、広く心理学全般への理解を進めるとともに中心的な概念を深く研究することを奨励する。

また学生には、専攻研究のなかで自然科学系のコースを履修するか、あるいは生物学・自然科学の視点から人間行動を研究するサンプリング実験のコースを履修することを奨励する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級のレベルのものでなければならない。

#### I 必修科目

- A. 一般心理学, 心理学入門
- B. 統計学 (心理学またはそれに相当する内容のもの)
- C. 調査方法, 実験心理学, 実験計画

#### II 心理学の中心をなす知識および心理学の下位領域の知識

以下に挙げる II A から II L までの領域から 4 領域を選択し、最低 1 コースを履修すること。

- A. 生物心理学・生理学的心理学
- B. 比較心理学・動物行動学・人性学
- C. 知覚・認知・感覚
- D. 学習と記憶
- E. 心理言語学
- F. 心理学史と心理学の体系
- G. 社会心理学
- H. 発達心理学, 児童心理学・青年心理学・成人発達, 年齢あるいは生涯発達
- I. 動機付け
- J. 異常心理学
- K. 正常性格・性格心理学
- L. 教育心理学

### Ⅲ その他選択科目

その他選択科目としては II で挙げた各科目の上級コース、あるいは以下に挙げる領域の上級コー

スを履習可能とする。

応用心理学

行動修正

医療方法

死と晩年

異常児童

老人学

集団力学・対人関係

ヒューマン・サービス

インディペンデントスタディ・調査・上級実験・組織心理学

産業心理学・人間因子

測定法（精神測定法）

心理史学

調停心理学

障害心理学

女性心理学

薬物心理学

性・再生産

意識状態

ストレス

濫用・リハビリテーション

セミナーでの議論

## 社会学

社会学は社会現象の学問であり、さまざまなタイプと発達段階とにある社会の個人・集団・社会組織・制度・経済・政治のそれぞれの場面における行動と文化と価値を扱う。社会科学は、集団や社会、あるいはより大きな社会的組織がどのような変遷をするのか、または変遷しないのかということの研究する。

専攻研究の最低必要クレジットは30クレジットとし、うち15クレジットは上級レベルのものでなければならない。

### I 必修科目

A. 社会学原理・社会学入門

B. 社会調査法

C. 統計学（社会学あるいはそれに相当する内容のもの）

D. 社会学理論。ここでのコースは各種理論（マルクス、ヴェーバー、デュルケムなど）の研究  
ないしその他社会科学のアプローチの研究とする。また社会思想の探求を行うコースも適切で  
ある。

## II 中級・上級コース

以下の3領域それぞれから最低1コースを履修すること。

A. マクロ（ないし社会的）社会学 以下のようなコース

階級と社会

比較社会学

現代日本の労働と社会

人口問題

貧困と社会構造

社会変革

社会問題

社会階層化

20世紀第三世界における政治革命

都市社会学

B. 制度社会学 以下のようなコース

婚姻と家族

政治社会学

奴隷制度・人種と文化

教育社会学

医療社会学

宗教社会学

労働社会学

労働と社会

C. ミクロ（ないし個人）社会学 以下のようなコース

犯罪学

逸脱

老人学

少年非行

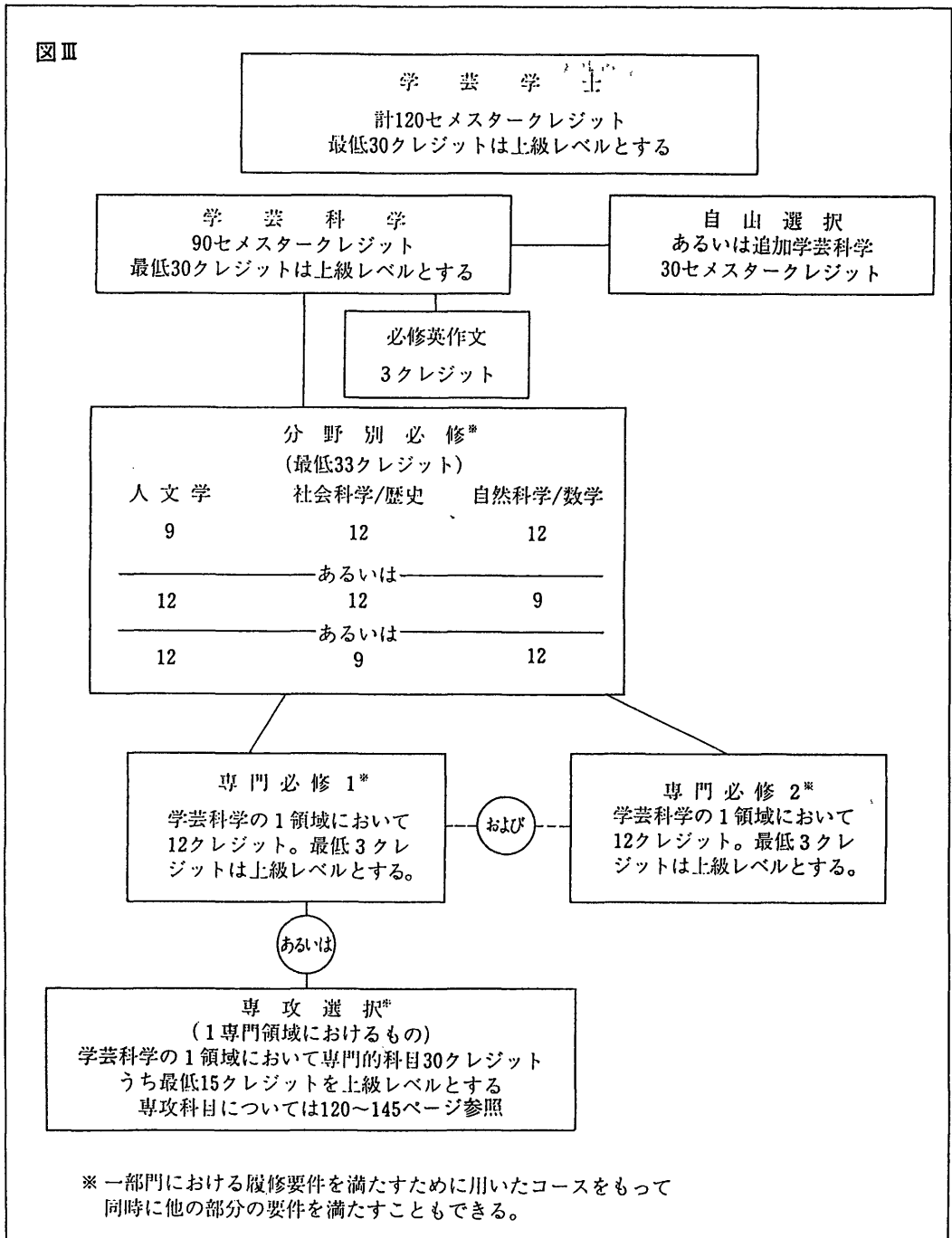
人種・民族関係

性別役割

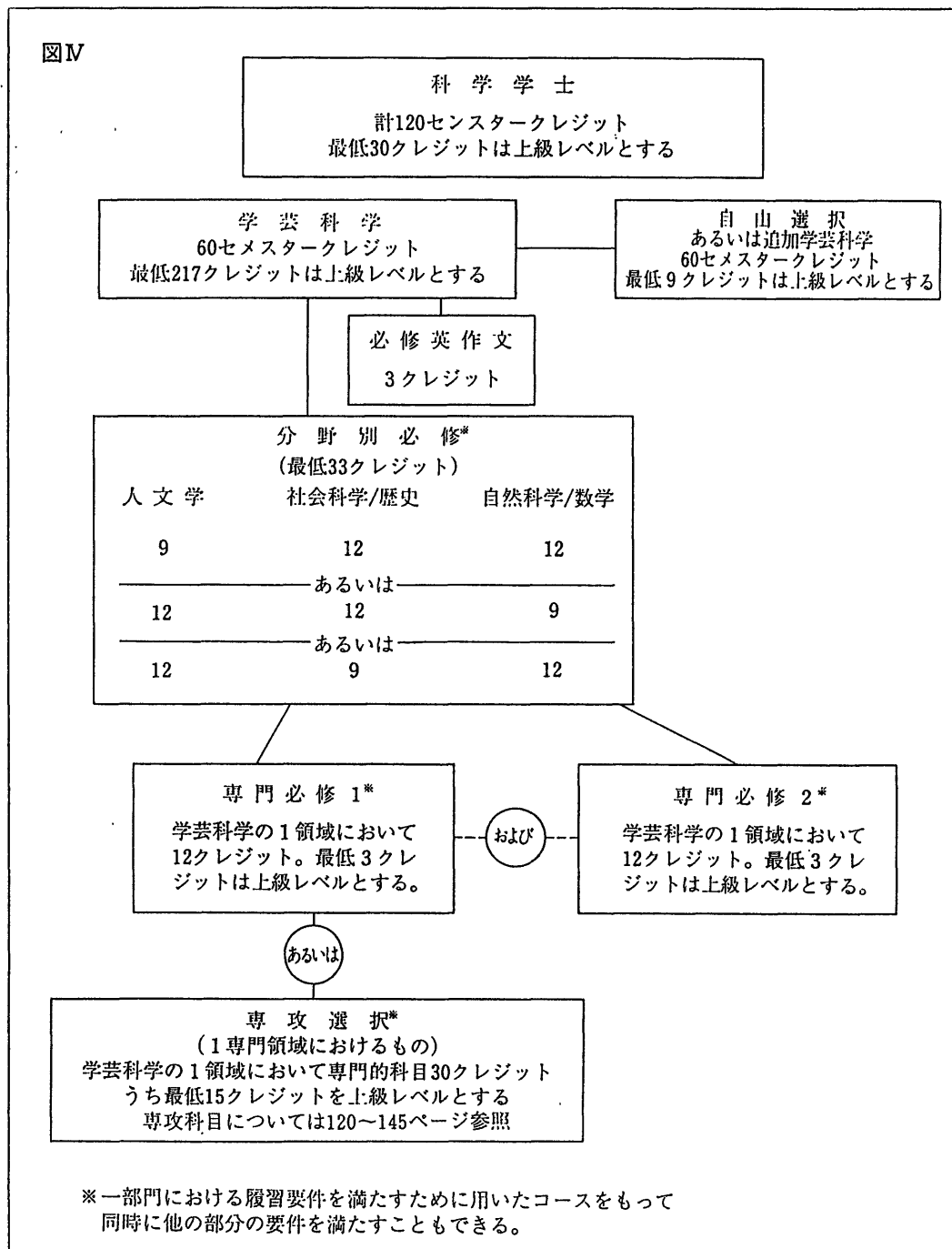
社会心理学

## III その他選択科目

図Ⅲ



図Ⅳ



## おわりに

以上、リージェント大学のカレッジカタログより、自由学芸学位の学士号ならびに準学士号の履修要件を訳出した。冒頭でも述べたようにリージェント大学では自由学芸学位のほかに看護、商業、技術の学位が授与されている。これら3種類の学位取得のための要件については、本紀要のこれ以下の号で順次翻訳、紹介してゆく予定である。

[ABSTRACT]

**Requirements for Liberal Arts Degree of Regents College**  
**—Translation from the College Catalog—**

Rie TACHIBANA\*

This material is a translation of a part of the College Catalog on for liberal arts degrees in the Regents College, USNY, one of the famous universities for giving external degrees in the United States. The institution offers degrees and associate degrees in four fields as Liberal Arts, Nursing, Business and Technology. The degree awarding system is similar to that of the National Institution for Academic Degrees in Japan, and it has already been overviewd in the articles by Prof. Tachi within the journal *Research in Academic Degrees* No. 1 and 2. This material, as a succession of them, is a translation of Requirements and Policies for Liberal Arts Degrees from Regents College Catalog: Liberal Arts Degree, pp. 46-67.

It was permitted by the Regents College on June 5, 1995 that the National Institution for Academic Degrees may translate the parts of degree requirements inCollege Catalogs into Japanese and publish them in its volumes of journal.

---

\* Reserch Fellow, National Institution for Academic Degrees.

